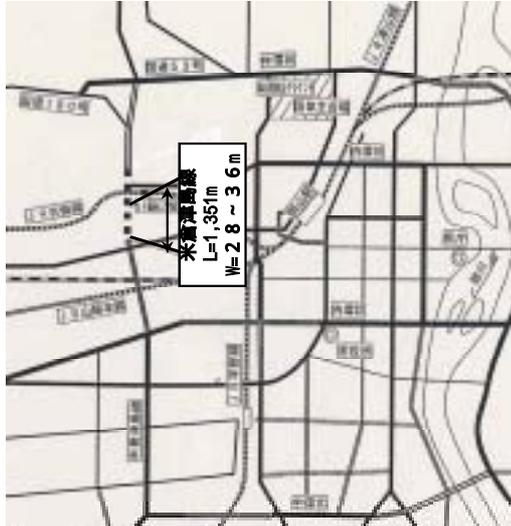


## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課  
担当課長名：斉藤 親

<b>事業名</b>	よねくらしません 米倉津島線	<b>事業区分</b>	街路	<b>事業主体</b>	岡山県								
<b>起終点</b>	自：岡山県岡山市野田 至：岡山県岡山市西崎1丁目			延長	1.3 km								
<b>事業概要</b>													
国道2号岡山バイパスと国道53号を連絡する街路で、岡山市における中環状線の一部を構成しており、都心流入交通の分散処理及び都心通過交通の排除を行うとともに、広域交通拠点である山陽自動車道の岡山ICや岡山空港へのアクセス機能を有し、一般県道巖井野田線のバイパスとして整備を行う6車線道路である。													
S61年度事業化	S39年度都市計画決定 (S53年度変更)	S61年度用地着手	S62年度工事着手										
<b>全体事業費</b>	約24.6億円	<b>事業進捗率</b>	96%	<b>供用済延長</b>	0.9 km								
<b>計画交通量</b>	26,400台/日												
<b>費用便益分析結果</b>	B/C (事業全体) 5.9  (残事業) 5.6	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 15/350億円 (事業費：14/349億円) (維持管理費：1/1億円)	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 84/2073億円 (走行時間短縮便益：80/1996億円) (走行費用減少便益：3/75億円) (交通事故減少便益：1/2億円)	<b>基準年</b> 平成15年									
<b>事業の効果等</b>													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な交通の確保（岡山空港へのアクセス向上が見込まれる）</li> <li>・国土地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難箇所が改善される）</li> <li>・個性ある地域の形成（JR山陽本線により一体的発展が阻害されている地区を解消される）</li> </ul> <p style="text-align: right;">他15項目に該当（定量的評価項目を含む）</p>													
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>													
地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、地元町内会をはじめ岡山市より早期整備の要望（平成11年9月16日）を受けている。													
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ：特になし													
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b>													
平成13年度にはJR山陽本線の立体交差部分を含む906m区間において供用を開始しており、残る445m区間について平成16年度完成供用に向けて工事を進める。													
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b>													
平成15年までに用地買収を終了し、本体工事を進め平成16年度に全線供用を目指す。													
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ：特になし													
<b>対応方針</b> ：事業継続													
<b>対応方針決定の理由</b>													
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。													
<b>事業概要図</b>													
													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—————</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■■■■■</td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●●●●●</td> <td>未着手</td> </tr> </table>	凡 例		—————	供用中	■■■■■	事業中	●●●●●	未着手					
凡 例													
—————	供用中												
■■■■■	事業中												
●●●●●	未着手												

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。